

SGH



関西創価高校

本校の概要 開校45年

- 1973年(S48)大阪の交野市に開校
- 2017年(H29)高校生徒数 1056名
専任教員数 54名
講師嘱託数 26名(8名native)
学年8クラス 英語はほぼ14～22名で授業
- 関西創価小学校、中学校からの推薦入学
- 高校から創価大学への推薦制度あり 約250/350



創価大推薦216名、創価短大推薦
15名、創価大受験合格51名



国公立大学33名
現役22、浪人11



アメリカ創価大学11名
ウェルズリー大学他海外大4名

京都大学 1名
大阪大学 4名
神戸大学 1名
北海道大学 2名
他
防衛医科大学(医学部) 1名
和歌山県立医科大学(医学部) 1名
長崎大学(医学部) 1名
徳島大学(医学部) 1名
富山大学(医学部) 1名
滋賀医科大学(医学部) 1名 他

研究開発構想名

**TRY人(じん)の郷・交野から
平和の創造に挑戦する
グローバルリーダー育成プログラム**



研究開発の概要

Active Learning

国連

地球的課題

平和

使命感

共感力

Global Leader

問題解決への創造力

高大連携

その構想のバックボーンは・・・

- 本校の教育指針

「他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしない」



- めざすべきグローバル社会

「他国の犠牲の上に自国の繁栄を追い求めることはしない」

- 「いのちの尊厳」を根底に

地球的課題に取り組む「世界市民」教育プログラム

国連が提起する地球的課題 4つのテーマ



環境



開発

世界市民教育



人権



平和

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



GRIT

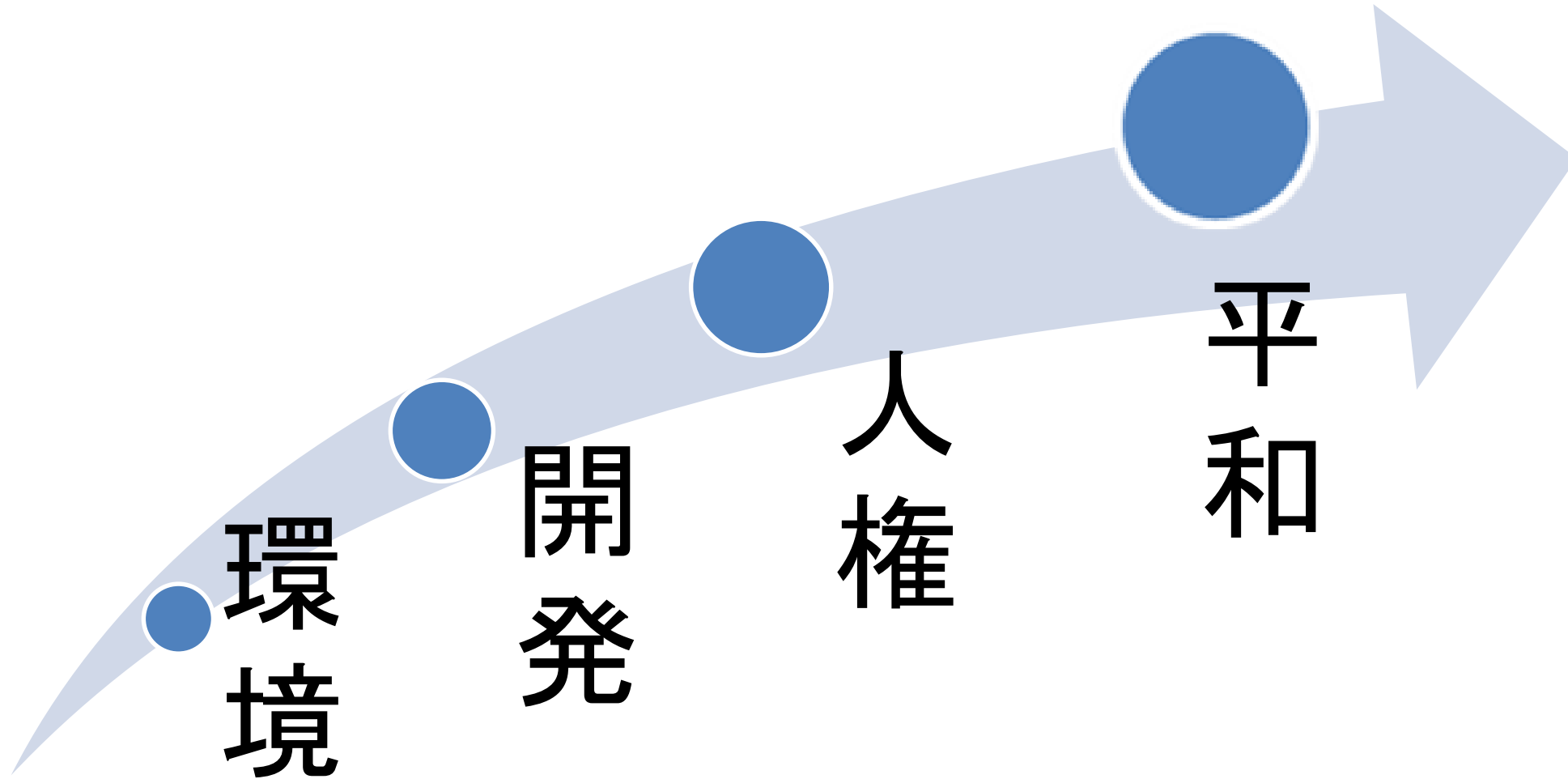
全校生徒1056名が対象

Your challenge
creates
the future.

Global Research and Inquiry Time

- 隔週土曜日に実施 ○全教員が関わる
- 「環境、開発、人権、平和」の4分野を幅広く学ぶ
チームが「テーマ」を設定し、3学期にプレゼン
- 大学院生が各クラスに1人担当し、アドバイス
- 1年生は夏休みに4分野に関わる人へインタビューワーク
- 昨年度から3年生では模擬国連と論文作成(日英)

SGH3年間の総仕上げとして



模擬
国
連



2015年→2019年へ 達成目標(抜粋)

○海外大学へ進学する生徒の人数

11人 → 30人

○卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合

50% → 80% **現3年 あと49名/349名で本年度目標65%に**

○国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合

65% → 85%

○課題研究に関する国外の研修参加者数

20人 → 100人

○課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数
(人数×回数)

185人 → 320人

SGH校としての意識の高まり(高3)

「GRITやSGHの取り組みは考え方や行動に影響を与えた」 78.9%

「途上国における開発の現状や問題点に関心がある」 71.3%

「世界の平和に貢献したい」 88.6%

「国際化に重点を置く大学への進学を希望したい」 78.5%

「将来、国際機関(国連など)にかかわる仕事がしたい」 29.1%

「意見の違う人の話や考え方を認める力が向上した」 83.9%

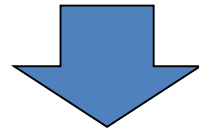
「困難なことも解決方法を探そうとする力が向上した」 80.6%

「語学習得への意欲が向上した」 80.2%

「将来、留学したい」 81.9%

SGH1年目の英語技能検定取得者数

1級1名 準1級10名 2級175名（全校生徒1056名）



SGH2年目（2016年度）

1級4名 準1級46名 2級240名

2017年度も昨年度を上回る勢い

第3回英検には1級、準1級で200名以上が挑戦

SGHを通して世界が身近に

- ユネスコ主張コンクールで文部科学大臣賞を受賞
副賞で国連訪問
- アメリカ・モンレー大学院「日米露3国の高校生に
よる核不拡散教育会議」に日本を代表して参加
- 模擬国連部が昨年の全国大会で優秀賞
ニューヨークでの国際大会に出場
- 中国語コンクールで西日本最優秀賞。世界大会へ

模擬国連 国際大会出場



SP

UP

希望者を対象
学校設定科目

SOKA Progress Class

○平日の7時間目 海外大学進学用の英語・数学等

University Partnership Class

- 「環境・開発・人権・平和」に関わる地球的課題を学ぶ基礎講座
- 毎週木曜日に大学・国際機関などから講師を招いて開講
- 学期末にはアメリカ創価大学教授による3日間の集中講座
- 単位を付与 ○GRITを推進し、さらにLCへつなぐもの

LC

希望者から選抜

Your challenge
creates
the future.

Learning Cluster

- 2・3年生の希望者から選抜（本年度は25名）
- 約4名1チームで4分野からコアなテーマを決め探究
- 活動の全ては英語
- 創価大学と提携した東京・アジアフィールドワーク
- アメリカ創価大学と提携したカリフォルニア環境人権平和フィールドワーク
- UNDPと提携した開発フィールドワーク

ヒロシマ フィールド ワーク



Your challenge
creates
the future.

東京フィールドワーク 2グループ



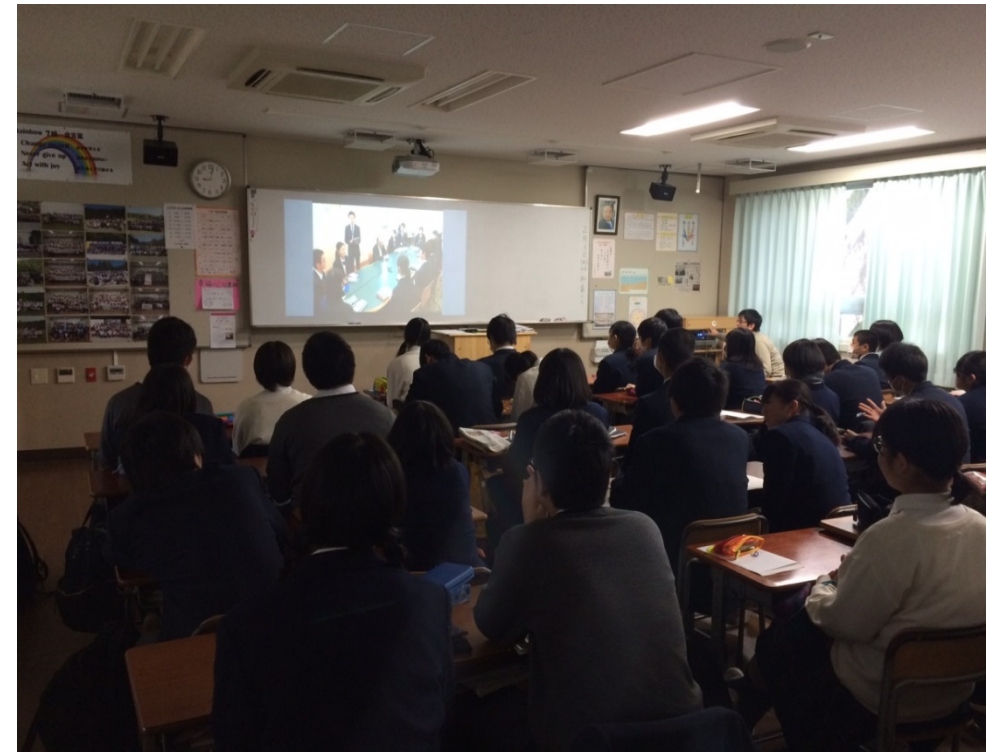
東北フィールドワーク

海外フィールドワーク
L.A. 1月末から1週間
UCLA SUA USC
高校2年・3年から16名
全額SGH予算から





元国連事務次長
チョウドリ大使と



その様子を全教室にLIVE中継

SGH委員会・職員会議の様子

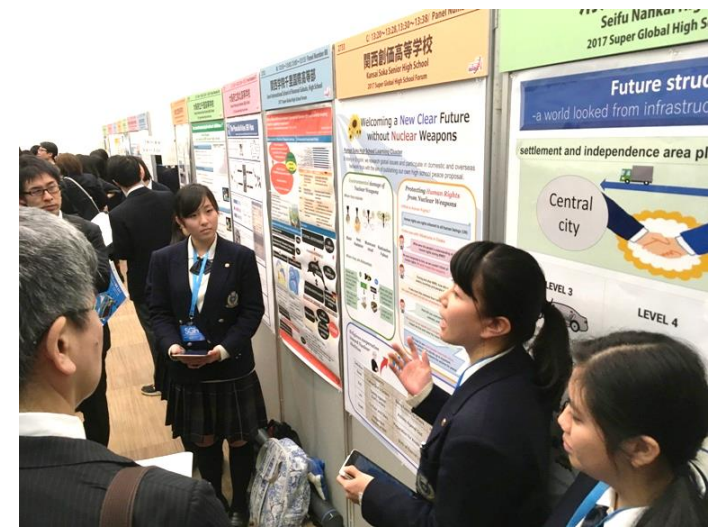
Your challenge
creates
the future.



月に1～2回、2時間の会議
研修報告、ディスカッション
GRIT・授業内容の検討など



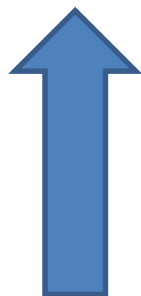
初めての内容は職員会議で
教員どうしで試してみます



管理機関としての取組について

理事会・評議員会

取り組み状況と成果を報告



独自の資金援助

法人本部：創価教育センター

=

関西創価：SGH委員会

- ※ 研究開発への支援
- ※ 資金管理・監査

- ※ 校内に設置
- ※ 実質的に事業を推進

運営指導委員会

- 梶田 勲一 先生 桃山学院教育大学次期学長
元中教審副会長・元兵庫教育大学学長等
 - 米田 伸次 先生 日本国際理解教育学会会長
元ユネスコ協会連盟理事
 - 朝野 富三 先生 ジャーナリスト・宝塚大学特任教授
元毎日新聞大阪本社編集局長
-
- 学校現場での研究開発の進捗状況を確認
 - 今後の課題や評価について指導・助言をいただく。
 - 平成27年、28年、29年度とも年3回開催 ※6月、11月、2月

資金面

- ・委託経費に加え、管理機関からの**資金援助**
- ・平成26年度の「アソシエイト校」段階から実施。
- ・フィールドワークなどの取組援助
- ・生徒の経済的負担を軽減

連携校との連携

- ・**高大連携**事業として、**創価大学**(東京八王子)や
アメリカ創価大学(米国・加州)と連携
 - ※研修のための**大学教員派遣**
 - ※大学**キャンパスでの生徒の研修**の計画策定
- ・**京都大、大阪大**などの教員からのアドバイス

成果普及の取組

研究発表会

- ・毎年2回実施（11月に中間発表会、2月に最終発表会）

※27年度中間発表会に11校、関係者など30名参加

※27年度最終報告会に5校、関係者など20名参加

※28年度中間発表会に8校、関係者など22名参加

※28年度最終報告会に8校、関係者など20名出席

※29年度中間報告会に9校、関係者など40名出席

- ・課題探究型の授業公開、生徒による研究発表、研修報告

研究報告書

- ・「実施報告書」を刊行 ※生徒による研究報告冊子も刊行。

WEBでの公開

- ・活動の内容は学校のWEB上でも閲覧できる

学校行事での公開

- ・オープンキャンパスなどで、生徒が活動報告

事業終了後の取組

Your challenge
creates
the future.

運営指導委員会からの助言

<取り組みの特色>

- 「生命尊厳」「他者との同苦」「世界平和の創造」との視点
- ユネスコスクールにも認定。ESDやSDGsを意識した取り組み
- 生徒と教員が一体となり、学校全体での取り組み

<今後に期待する視点>

- 多様性を意識し、他者と共感を得る取り組み
- 地域性を大切にし、「交野」ならでの発信
- より積極的に、関西創価の取り組みを情報提供

学校としての課題認識

- ・全員が取り組む課題探究授業の**内容精査**と**時間配分**
- ・生徒の変容、**心の変化**にこだわるプログラム立案。
- ・**各教科**における課題探究のカリキュラム化
- ・発信力を高めるプログラム開発
- ・「交野」という**地域から発信**するプログラム
地域の学生や**住民と共に開発**するプログラム

事業終了後の構想

- ・カリキュラムマネジメント、高大接続教育をより推進
課題探究学習を各教科に広く展開しカリキュラム化
特に理数系の教科への展開を目指す
- ・フィールドワークを継続的に実施⇒全校への展開、波及
関係教育機関、地方公共団体との支援組織作り
- ・東京の創価高校(28年にSGH指定校)との連携で、蓄積した教育
資源を共有し活用